

第2学年保健体育科（体育分野）学習指導案

日時 令和5年10月5日（木）6校時

学級 2年C組28名

授業者 小山 敦子

1 単元名 E 球技 イ ネット型 バドミントン

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領〔体育分野 E 球技 第1学年及び第2学年〕の内容であり、「イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。」をねらいとしている。小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型から構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。その中で、ネット型に分類するバドミントンは、1対1や2対2でネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを操作して様々なフライトを打ち、いかに相手コートに落とすか、そして得点を重ねていくかを競い合う運動であり、攻守の切り替えが非常に速いという特徴がある。その中で、いろいろなストロークを活用しながらラリーを続けたり、緩急をつけた打球や相手を前後左右に揺さぶる打球を打って得点を競い合ったりするところ楽しさがある。また、相手の特徴を分析したり、対戦した相手や自分のチームの特徴を考えたりして作戦を立てるなどの楽しさもある。

さらに、シャトルを遠くに飛ばしたり、高く打ち上げたりする中で投力を養うことに加え、ラケットを操作しているいろいろな打球を打ったり、相手からのいろいろな打球に応じて返球したりする中で巧緻性を養うことや、空いた場所に打たれた打球を返球したり、返球後に定位置へ素早く戻ったりする中で敏捷性や瞬発力を養うことも期待できる。

(2) 生徒観

ネット型ゲームとして、第1学年にバレーボールを経験している。「相手の打球に備えた守備姿勢をとること」「味方が操作しやすい位置にボールを操作すること」を意識しながら「空いている場所へ攻撃すること」を目標に学習を進めてきた。多くの生徒が「空いている場所へ攻撃すること」の有効性は理解したものの、ボールの落下地点が分からなかったり、自分との距離感が分からなかったり、ボール操作に慣れてない生徒もいた。また、バドミントンについての事前アンケートにおいて、バドミントンが「あまり得意ではない」「苦手」と答えた生徒が7人いる。

各単元で自己やグループの課題を見つけ、その課題を克服するために練習方法を選択する活動や動きのポイントを伝えあう活動と取り入れている。事前アンケートでは、「自分から仲間にアドバイスや気付いたことを伝えていますか」について「伝えている」と答えた生徒は3人、「どちらかと言えば伝えている」は21人、「あまり伝えていない」は2人であった。また、「仲間や先生からのアドバイスを自分の学習に役立てていますか」について「役立てている」と答えた生徒は26人であった。アドバイスを役立てたり、ペアやグループ学習の際仲間に伝えることはできたりしているが、全体の場で発言できる生徒は限られている。

自分たちで課題に向き合おうとする姿勢、運動の苦手な仲間を巻き込んで活動する姿勢などが見られるなど、運動に前向きな生徒が多い。一方で、男女のコミュニケーションに課題が見られる。事前アンケートを実施したところ、「バドミントンは好きですか」については、「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた生徒は21人であった。さらに、「バドミントンの授業が楽しみですか」について「はい」と答えた生徒は26人であった。アンケートからも体育への興味、関心が高いことが分かる。

全体的には、「スマッシュができるようになりたい」「ラリーを続けられるようになりたい」と考えている生徒が多いが、バドミントンの授業について7人の生徒が不安に思っている。その理由は、「1・2回しかやった

ことがないから」「自分が動きながらシャトルをラケットで打ち返すことが苦手だから」「遠くにとばせないから」「ラケットにあたるか不安だから」などという意見があった。そこで、基本的なラケット操作から段階的に技能の習得を図る中で、仲間と協力しながら課題を解決し、身に付いた力が試合で発揮できるような授業づくりを大切にしていきたい。

(3) 指導観

本校では、球技の領域のネット型の授業については、第1学年ではバレーボール、第2学年ではバドミントンを取り扱う年間指導計画を作成している。第2学年では、ラリーを続けることを重視して、シャトルやラケットの操作と定位置に戻るなどの動きによる空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。

本単元では基本的な用具操作と定位置に戻るなどの動きによって、相手コートに空いている場所を攻撃したり、その攻撃に対応して守ったりすることを中心に攻防を展開できるようにする。指導に際しては空いた場所への攻撃を中心としたラリーの継続についての学習課題を追求しやすいように、プレイヤーの人数、プレイ上の制限を工夫したゲームと取り入れ、ボールや用具の操作とボールを持たないときの動きに着目させる。また、課題が明確になるように視点を具体的に伝え守備から攻撃へとつなげていく。さらに課題解決に有効な練習方法を選択できるように、ドリルや練習方法の工夫をしながら、話し合い・教え合いをつなげていきたい。さらに、一人一人の違いに応じたプレイを大切にするため、体力や技能の程度、性別関係なく楽しめる環境づくり場の工夫を行っていき、次年度へとつなげていきたい。

(4) 研究内容との関わり

本校では今年度の研究テーマ「自律した学習者の育成を目指して～生徒が自ら考え、自ら行動する学習の連動を通して～」と設定している。保健体育科では、自ら考え活動に入る準備を整える、自ら判断し積極的に活動する、自らの行動や発言を振り返り次の活動につなげるという3つのポイントを設け、具体的な手立てを以下のように設定した。

ア 生徒一人一人が自分の考える場面設定の工夫【重点1】

- ・本時、単元の最終時までの見通しを示し、共有する
- ・自己変容を確認するための振り返りを行う
- ・生徒の実態を踏まえた課題設定をする

イ 自分で考えを基にした行動(選択、メモ、対話等)の充実を図る工夫【重点2】

- ・自己の考えを広げ深める場面を設定する
 - 自己の考えをまとめる場面・・・自分はどう考えるか
 - 仲間の考えを知る場面・・・他の人はどのような考えをもっているのか
 - 自己の考えを広げ深める場面・・・自己の考えとの合致点や相違点を知る
- ・深い学びに誘う発問をする

ウ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得

- ・主運動につながる準備運動の工夫(セットメニュー等)
- ・運動場面と思考場面をバランスよく構成
- ・獲得した知識、技能の可視化(提示、ICTなど)
- ・具動的な知識(体の動かし方や用具の操作方法)汎用的な知識(運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則など)の住還を図る

エ 生徒指導4視点やユニバーサルデザインの視点の活用

- ・時、礼、場に重きを置き、習慣化させる
- ・共感的な人間関係の育成を目指す

この他、年間を通して保健体育科で大切にしたい約束事やルールは引き続き継続していき、命を大切にできる授業、動くことの楽しさを伝えられる授業づくりに努めていきたい。

3 単元における指導と評価

単元の目標	知識及び技能		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等		攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。										
学びに向かう力、人間性等		球技に積極的に取り組むとともに、（フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、）仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業欠りのポイント		
学習の流れ	0	※ルール、特性、基本的なラケット操作	1. 健康観察・本時のねらいの確認										・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導し、評価する
	10		ドリル(ラケット操作)	2. ドリル(ラケット操作) ランラン ①サーブ ②ハイクリア ③スマッシュ ④ヘアピン					3. ゲームⅠ ・チームで攻め方(動き方の確認をして) ゲームをする。	リーグ戦	リーグ戦	・互いに教え合う時間を確保する。 ・ICTを効果的に活用する。 ・積極的に話し合いや交流するよう促す。 ・生涯にわたって運動やスポーツに親しむためには、「する・見る・支える・知る」に視点が あることを併せて意識させる。	
	20			3. ラリーゲーム ①何分続けられるか(高くて易しい) ②何回続けられるか(低くて速い)		4. 条件付きゲームⅠ ①縦半分コート(1対1) ・前後の揺さぶるショットの必要性に気づく。							
	30	※試しのゲーム理解	※課題の発見	5. ポイント確認※どんなショットが有効か					5. ゲームⅡ ・チームタイムに確認をした考えを基に実践する。	リーグ戦	単元のまとめ		
	40			6. 条件付きゲームⅡ ①縦半分コート(1対1) ・相手の位置に合わせてショットを振り分ける。		②後ろ半分コート(2対2) ・相手の位置に合わせてショットを振り分ける。							
50	学習の振り返り・次時の確認												
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知識	①	②	②								総合的な評価 学習カード、観察 観察、学習カード	
	技能				②		①	③	③				
	思・判・表					①			②		③		
主体的に学習に取り組む態度		③	②							①			
単元の評価規準	知識	①集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性について言ったり、書きだしたりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。											
	技能	①ボールを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。 ②テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。 ③シャトルを打ち返した後、定位置に戻ることができる。											
	思・判・表	①提供された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ③練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。											
	主体的に学習に取り組む態度	①バドミントンの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ③健康・安全に留意している。											

4 本時の目標と展開

(1) 本時の目標 (8/10時間)

シャトルを打ち返した後、(空いた場所をつくらない) 定位置に戻ることができる。(技能)

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価方法
技能	シャトルを打ち返した後、(空いた場所をつくらない) 定位置に戻ることができる。	観察 学習シート

<努力を要する生徒への手立て>

- 三角形の形をつくることを声がけする。
- 目印になるものをおいて可視化する。

(3) 本時の展開 (次頁)

段階	学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点 ◇評価	備考
導入 10分	1 準備	・準備を通して活動に対する雰囲気をよくするために、全員で協力して行う。その際に、周りへ気配りをしながら準備を行うよう確認する。	デジタイマー マーカー タブレット
	2 挨拶・健康観察	・けが防止のために、体調不良の生徒が無理しないように、丁寧に観察を行う。	
	3 体操・ストレッチ ランラン・ラリー練習	・メインゲームにつながる基礎的な練習に取り組んで行く。(サーブ⇒クリア⇒スマッシュ⇒ヘアピン)	
	4 学習課題の確認	・課題解決につながる発問【重点1】 返球をした後、どこに動いていますか。	
陣形を意識しながら、ゲームを行おう！			
展開 33分	5 試合形式① (3対3) (4分×3) 試合は1球ごとに反時計回りに動く	・課題解決に向けた伝え合い【重点2】 試合をしていないチームが、返球後に定位置に戻っているかを確認し、試合後に伝える。 ・定位置に戻るための仕方を確認する。 どのような時に困っているか、それを基に前時で行った練習方法から選べるように伝える。	・タイマー ・タブレット
	6 チーム練習 ・方向が分からず動けない生徒がいる (どのように動くか確認する) ・タイミングが分からない生徒がいる (打ったタイミングでハイと言い、その後動く)	自己の変容を自覚する伝え合い【重点2】 試合①からよくなった動きについて、伝え合う。	

	7 試合形式② (3対3)	◇開始するときは、各ポジションの定位置に戻ることができる。【運動の技能】観察	
終末 7分	<p>8 本時の振り返り (共有)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた位置にいることで良い守備ができたので、次のリーグ戦につなげていきたい。 ・シャトルに応じての動きができなかったため、もっとチームで声かけをして陣形を整える。 <p>9 次時の予告・挨拶・片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「定位置に戻る」ことを意識してみて試合をして、「わかったこと」や「気づいたこと」、「うまくいったこと」や「うまくいかなかったこと」などを振り返る。 ・「うまくいかなかったこと」を次時の課題解決とつながっていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・雰囲気よく終わることで次時の活動への意欲につなげていくために、全員で協力して片付けを行う。 	

【参考資料】

1 指導と評価の計画

(1) 第1学年及び第2学年「球技」の全ての単元の評価規準

全ての単元の評価規準	知識	<ul style="list-style-type: none"> 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書きだしたりしている。 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われている。 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、言ったり書きだしたりしている。 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて学習した具体例を挙げている。
	技能	<ul style="list-style-type: none"> サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。 ボールを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 相手側のコートにボールを返すことができる。 テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻ることができる。 ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 作戦などについての話合いに参加しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 健康・安全に留意している。

